

じんけん瓦版

第46号

発効日：2012年11月11日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

フクシマを知り・ともに祈る

リレーウォーク 特集

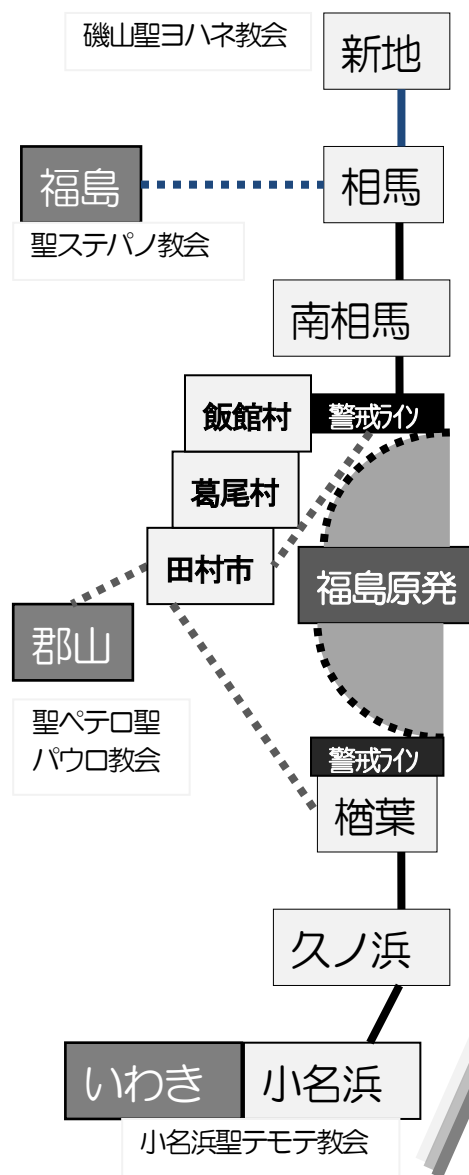
2012年9月2日(日)～9日(日)

今回、原発事故により今もそしてこれからも苦しみが続く「フクシマ」を訪れました。津波による被災地を歩き、津波で亡くなった方々を覚え、各所(10カ所)で祈りを捧げました。また、原発事故により立入禁止となった警戒区域(ライン)まで歩いたり、住民の避難によりほとんど無人となった飯館村などのエリアも通りました。そして住民の帰還に向けて除染作業が始まった現場も視察しました。

また、東北教区福島県の教会(4教会)を訪れ、「いっしょに歩こうプロジェクト」(支援センターしんち・小名浜ベース)の働き場に参加したり、信徒の皆さん、それぞれの働きを担われている方々、津波被害に遭われたり、原発事故により避難されている住民の皆さんから直接お話を聞き取る機会もありました。

フクシマの苦しみをより身近に知った私たちにとって、それを伝え、今後どのように関わっていくことができるか、大きな課題を与えられた旅でもありました。

日程	行程
9/02(日)	10:30 福島聖ステパノ教会 聖餐式 午後 除染プラザ見学 相馬市へ(車にて)
03(月)	磯山聖ヨハネ教会 [ウォーク] 新地町 祈り～相馬 祈り～南相馬 祈り 歩行約30km
04(火)	「いっしょに歩こうプロジェクト 支援センター新地に参加」 「支援センター新地」 松本 普 さんのお話し
05(水)	[原発周辺地区 フィールドワーク] 南相馬小高地区 祈り～警戒ライン(北) 祈り 車にて 飯館村～葛尾村～田村市(除染現場視察)～郡山 東北教区 越山司祭のお話し
06(木)	郡山 聖ペテロ・聖パウロ教会 聖餐式 [原発周辺地区 フィールドワーク] 車にて 郡山～田村市～楡葉町～警戒ライン(南) 祈り [ウォーク] いわき市久ノ浜 祈り～四倉 歩行5km いわき市 久ノ浜第一幼稚園 青木園長のお話し
07(金)	[ウォーク] いわき市 四倉 祈り～豊間 祈り～小名浜 祈り 歩行約27km 「いっしょに歩こうプロジェクト 小名浜ベース」 木村司祭のお話し
08(土)	いわき市小名浜 「いっしょに歩こうプロジェクト 小名浜ベース」に参加
09(日)	10:30 小名浜聖テモテ教会 みことばの礼拝



主催：日本聖公会東京教区

正義と平和協議会・人権委員会

フクシマリレーウォークに参加して

(原発周辺の行程について参加者の感想を抜粋させていただきました)

(相馬から南相馬を歩いて)

午後は、相馬市の中で最も被害が大きかった磯辺地区で祈りを捧げる。磯部小学校から東北電力原町火力発電所を経て原町までをリレーウォーク。野鳥が集う南相馬市鹿島地区でも亡くなった方と遺された人々、今なお苦しむ人々のため祈りを捧げた。全てが奪われ、悲しみと苦しみが続く地は人の気配も無く静寂に包まれていた。相馬で、家の土台だけが残っている一地区に小さい風車のような「風の碑」があった。立てた人たちの名前と詩が書かれている。「天の風となった人たちよ、風車を回して便りをください。風となって遠くから吹きわたる声を聞かせてください」。津波で土がかき回され種子が芽吹いたという準絶滅危惧種のみずアオイ。その花が咲くたくさんの水田跡！自然に対する畏れと原発事故の残忍性を思う。天の風となった人たちの哀しみの声が聞こえるようだ。

東京聖三一教会 小林幸子

プがひっきりなしに通過し、また空き巣狙い防止の地域警戒ボランティアの人たちもいました。田舎の大きく立派な農家の家々がたくさんありますが、人は住んでいないようです。しかし、数軒並んだ住居の前を高齢の女性らしき人が歩いていました。避難せずに慣れ親しんだ家に留まり続けているのかもしれませんが。そこから十数分歩いて、「ここから浪江町」という鋼鉄製の重い大きな車止めが道路を塞いでいました。

一年前までは、人と人との楽しい濃い触れ合いがあったところが、家自体には住めるにもかかわらず、強制退去をさせられ知らない土地の狭い仮設団地に入れられ、つながりを分断させられました。また、残っている人たちも、どのような思いで暮らしているのでしょうか。自死させられた酪農家が牛舎の板壁に「原発さえなければ」と書いた言葉は重く響きます。原発が人を壊してしてしまいました。

清瀬聖母教会 司祭 井口 論



(南相馬市警戒区域ライン)

国道6号線から県道255号線に入り、JA 倉庫から歩き始めました。炎天下を、草ボウボウの田んぼや畑であっただろうところを見ながら進みました。復興ダン

(南相馬市から飯館村へ)

警戒区域解除となった南相馬市小高地区を抜け、原発警戒区域ラインで井口司祭、皆さんとともに追悼の祈りをした。南相馬市、浪江町、双葉町だけで 850 人を越える津波による死者、原発事故で避難を強いられている多くの方々の平安を願う。住民のまったくいない中での祈り、蟬の鳴き声だけが強い日差しの蒸し暑い中で耳に残った。昼食後、車に分乗して郡山へ向かうべく、飯館村を目指す。

私の父は、飯館村の出身である。父の兄が家を継いで、農業を営んでいたが、原発事故で家族は福島市内に避難させられている。自分も小学生の頃に何度も遊びに来ており、懐かしさでいっぱいになった。がしかし、そこで眼に入ったものは、原発事故のため

村には人がまったくおらず、田畑は荒れ放題、そして高い放射能値、なにやら異常におおきく成長している草花、そんな中でも初秋を向かえる飯館村には、たくさんの赤とんぼがいつもとおなじように群れをなして翔んでくれた。(中略)

フクシマで起きている事を、ひとつとにしないようにフクシマの方々の覚悟と寄り添っていけるようにありたいと、強く強く心に刻むことができた福島リレーウォークとなりました。 立教諸聖徒教会 松田伸剛

津波による被災状況、および、原発の放射線汚染地域の実態については、TVの映像や報道写真によって知っていたつもりでしたが、生々しい現地の悲惨な光景に接して、新たな衝撃を受けました。現在、隣国との間の領土問題に対して、多くの政治家・評論家・国民が、領土の主権の重要性を主張しています。然しながら、緑豊かな美しい福島県の貴重な国土の一部が、原発事故により実質的に喪失してしまったという現状を、他人事ではなく真摯に認識しているのでしょうか？

人災と断定された3・11の福島原発事故に対して、「絶対に忘れてはいけない」と自覚し続けることの重要性を、改めて思い知らされたフィールドワークでした。

三光教会 安次嶺 昭男

(越山司祭のお話しをお聞きして：郡山)

夕の祈りの後、越山司祭が現状についてお話をされました。

「原発事故以降、生活は一変してしまいました。福島ということで一括することは出来ず、地域性がはっきり出てきています。仮設住宅でもいくつかの町の人がいっしょに住めば、細かいデリケートな問題が沢山出てきます。現在も郡山に残っている人たちは、ここを去ることが出来ずに残っている人たちであり、聖堂の斜め向かいにある幼稚園では、園児は半減し、現在も外遊びは行われていません。津波は復興という夢がありますが、放射能は祖父母と若夫婦、親同士、出て行くことが出来る人と出来ない人の間に断絶をもたら

します。地震前にあった絆は破壊されました。今あるのは、追い詰められた人たちの絆です。

そのような中で教会に出来ることは、残された人々に寄り添うこと、居心地を良くしてあげること、そして旧約ヨシュア記のエリコの譬えのように、毎日ひたすら歩き続け、絶対にあきらめないことです。福島以外のところでも、避難してきた方を風評や偏見に惑わされず受け入れて、居心地の良い世界を作ってあげてください」。 三光教会 安次嶺佳子 記

(楢葉町 警戒区域ライン)

ついに第二原発が見えたところで、今や住む人のない半壊した家屋の前に、どしゃぶりに打たれながら献花をささげ、原発付近の大熊町(死者46、不明1)、楢葉町(死者373)、富岡町(死者91、不明3)で命を落とされた人々を覚えて祈りました。雨は雷鳴を伴い、傘は何の役に立たず、靴の中まで水浸しです。それでも私たちはめげずに海岸まで歩き、原発の建屋が見える場所までたどりつきました。



津波の被害ただそれだけであれば、人々が復興に向けて汗を流している姿があったはずですが、それが原発事故のために居住することもできない土地になってしまいました。30年、40年、一体どれ位の時間が必要なのか？避難生活を続ける人々の痛みが私たちの胸を突きます。激しい雨に見舞われたことで、「フクシマを知り・ともに祈る」旅が私たち一人ひとりの心に一層深く刻まれたと思います。

浅草聖ヨハネ教会 司祭 大森 明彦

第9回 祈りの会のご案内

～信教の自由を求めて、キリスト者のつながりを～

日時：2012年11月17日（土）14:00～17:00

場所：浅草聖ヨハネ教会 東京都台東区蔵前 2-7-6 （都営浅草線 蔵前駅）

14:00～ 祈りとメッセージ

メッセージ：西川 一樹 さん

日本キリスト改革派 横浜中央教会

15:00～ 懇談会

・各訴訟と憲法 20 条「信教の自由」について

・大阪 10/22 集会について ほか

参加費：500 円 （資料代・通信費等）

<お問い合わせ先> 日本聖公会東京教区人権委員会 うちだ まり 打田 茉莉
電話：090-9649-0392 FAX：042-427-1759
Eメール thepauls@jcom.home.ne.jp (森田)

主催：「日の丸・君が代」強制に反対し、
信教の自由を求める超教派キリスト者の会

エイズ・デイ 第18回 世界AIDS・DAY記念礼拝のご案内

～PWH/Aの方々が生の尊厳を確信できるように、
また AIDS で亡くなられた友を覚え、ともに祈り、
交わりの回復を願って～

日時：2012年12月2日（日） 午後5時

場所：日本聖公会東京教区 牛込聖公会聖バルナバ教会

新宿区矢来町 6 5 （地下鉄東西線 神楽坂駅）



日本聖公会東京教区人権委員会
日本キリスト教団新宿コミュニティ教会
カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク
ルーテル HIV/AIDS プロジェクト 共催

<お問い合わせ先>

日本聖公会東京教区人権委員会 うちだ まり 打田 茉莉 (090-9649-0392)